



## 膀胱炎が職業病

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

小学校に勤務して7ヶ月が過ぎましたが、中学校での勤務経験しかない私が、「小学校の教員の仕事の様子を一言で表しなさい」と言われたら、「過酷」と答えます。

朝の打合せ（月、水、金曜日）が8時10分に終わると、教員はそれぞれ担任する学級に向かいます。次に職員室で教員に会えるのは、下校バスが出発した後の15時過ぎです。約7時間もの間、教員は授業はもちろんですが、朝自習、給食、清掃などの指導をしたり、休み時間に子どもと一緒に遊んだり、話をしたりしています。給食の合間に宿題の点検をしたり、家庭学習にコメントを書いたりもしています。約7時間の間、トイレに行く間もなく、ほぼ「ノンストップ」で働いています。膀胱炎になっても仕方がない働き方です。

小学校の教員の仕事が過酷になっている背景にあるのが、「空き時間（授業を担当しない空きコマ）」がないことです。下の「小・中学校教諭の1週間の授業持ち時間」の表を御覧ください。小学校の教員の場合、週26コマ以上持っている人が「47.4%」、21～25コマ持っている人が「39.7%」もいます。中学校では16～20コマが「56.8%」で、21～25コマが「23.7%」、26コマ以上は「1.7%」です。26コマということ、「5コマ×4日+6コマ×1日」ということなので、ほとんど授業に出ずっぱりということ（本校では、外国語専科教員が配置されているので、第3・4学年の外国語活動（週1時間）と第5・6学年の外国語（週2時間）の時間については、学級担任は空き時間になっています）。

そして、少ない空き時間にも、休憩できるわけではなく、授業準備、宿題の点検、家庭学習のコメント書き、各種事務、会議などが入ります。そして、下校バスが出発した後も、授業準備や各種事務、会議等があります。

こうして、学校で最も重要なはずの授業のための準備が「1日7時間45分の勤務時間」の中では十分に行うことができないのです。小学校の教員はいつ授業の準備をしているのでしょうか。勤務時間が終わる16時30分以降にやらざるをえないということ。しかし、現在は時間外勤務についてのガイドラインが示されていて、月の時間外勤務が45時間を超

えてはいけないことになっています。仮に時間外勤務をするとしたら、1日2時間程度ということ。これは決していいことではありません。

小学校の教員は、昼間は膀胱炎になることの恐怖と戦いながら、ノンストップで働き続け、夕方からは限られたわずかな時間を有効活用するためにはどうするのか、そんな緊張感にさらされます。このような過酷な日々の中でも、本校の教員は、授業の質だけは絶対に保つという覚悟の下、試行錯誤を続けて授業準備に当たってくれています。

次号では、小学校が一層過酷になる構造的な問題について考えます。

小・中学校教諭の1週間の授業持ち時間

【小学校】

授業持ち時間	割合
01～15コマ	7.9%
16～20コマ	5.0%
21～25コマ	39.7%
26コマ以上	47.4%

【中学校】

授業持ち時間	割合
01～15コマ	17.8%
16～20コマ	56.8%
21～25コマ	23.7%
26コマ以上	1.7%

文部科学省「教員勤務実態調査」（2016年実施）をもとに作成